



第11号

編集発行／碧南市

哲学たいけん村

無我苑

所在地／碧南市坂口町3-100

〒447-0087：TEL. 0566-41-8522

：FAX. 0566-41-7761

円空の行動の源泉とエネルギーはどこから生まれるのであろうか。谷口順三氏の「善財童子のアプローチ」を読んで谷口氏は少青年期は、亡き生母であり、壮年期には護法であり、晩年には善財童子がそのモチーフの中心であるときれています。

(江坂清作氏「円空仏との出会い」より)

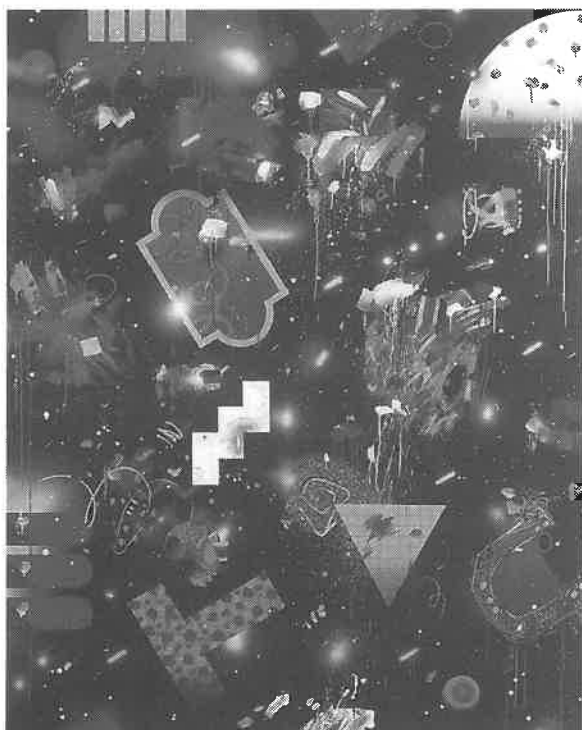


太田権現 (太田山／北海道)

宇宙の神秘と生命の不思議に感応している限り、作品づくりは誤またないという変な確信を私は持っているが、黒い作品も白い作品も私にとっては世界と結びついたり、交感したりするための重要なものである。

(杉浦イッコウ氏

「『天と地』のなりたち」より)



A SPACE ODYSSEY 88 I

平成十年 度 新春特別講演会

講師 梅原 猛氏(哲学たいけん村 無我苑名誉村長)

演 題

「伊東静雄の 人生と詩」

今回の講演は梅原先生が初めて試みるテーマで、昨年その本を手にしたばかりだという詩人、伊東静雄(一九〇六-一九五三)についてのお話でした。伊東静雄は萩原朔太郎をして「傷ついた島崎藤村」と言わせた詩人ですが、生前に四冊の詩集しか出さなかったこと、またそのほとんどが今は絶版となり、書店にも置いていないことなどから、詩人としての存在が、あまり多くの人に知られていません。梅原先生ご自身は伊東静雄を「近代文学に最も大きな影響を与えた一人」と絶賛しておいででした。お話は長崎県諫早市の生まれである伊東静雄の生い立ちに始まり、梅原先生の鋭い推察を交えながら、先生の朗読による詩の鑑賞へと入り、従来のスタイルとは違った講演に、聴講者は熱心に耳を傾けていました。伊東静雄の詩は情念をギリギリまで押さえながら、運命を受容する悲しみ、あきらめを表す思想詩だが、けっして感傷に溺れていない詩である、と評しておいでだったのが、講演全体の中で印象に残っています。

平成10年度 哲学講座講義テーマと講師名

講 義 テ ー マ	講 師 名 (敬 称 略)
主テーマ「追体験」 死生学(サナトロジー)における追体験 精神分析における「追体験」 「体験」の闇を抜けて 体験と追体験	竹田純郎(金城学院大) 平山壮一郎(広島市精神保健福祉センター嘱託医) 加藤博子(中京女子大) 久野 昭(中京女子大)
主テーマ「哲学たいけんの空間〜 碧南市哲学たいけん村無我苑の場合」 文学に見る住まいの思想 現代の美術のたいけん 脱俗の茶の湯空間〜直心の交わりを求めて 哲学たいけんの空間	若山 滋(名古屋工業大) 清野祥一 中村昌生(京都工芸繊維大) 久野 昭(中京女子大)

平成十年 度 前期・後期哲学講座の記録

〈受講者の感想〉

※前期

人と人のかかわり方は常に変化するものだという事を最近よく感じるようになり、人との距離のとり方が難しいなと思う経験を体験(?)し、今回初めて哲学講座を受講しました。

いろいろ、辛いことが重なってくると過去のつらい経験を同時に思い出したりして、自分の心を客観的にみつめたいと思ひ、「体験と追体験」ということばにひかれ、興味深くお話を聴くことができました。

一生懸命、頭の中で整理するだけで一杯でしたが、自分にとっては心休まるひとときを体験することができました。こんな感想でお恥ずかしいのですが、ありがとうございます。(A・N)

※後期

毎回の講座はとても目新しい題目にてそれなりの先生の哲学があり、哲学者と言われる方の講座も楽しいですが今回はその建物、空間とのかかわり等、意味も含めてこれからの哲学たいけん村に接する上で楽しい講座でした。

哲学たいけん村に来ると非日常的生活空間になって、私は生活(日常)空間から脱してしまいます!

中村昌生先生の直心の交わりを求めている講座は言葉の一つ一つ選んで「異風になく、結構になく、さすがに手際よく、目に立たぬよう」な素晴らしい講座でした。

やはり、久野先生のお話は時間が過ぎってしまうのが勿体ないほどでした。ありがとうございました。(K・H)

哲学講座：とても難しい勉強かと思っておりましたが、素晴らしい体験をありがとうございました。研修道場で落ち着いて勉強できたことを嬉しく思っております。(M・A)



お知らせ

うぐいすの声を聴く会

日本伝統「引仮名口(ひきかなぐち)」銘鶯保存会(会長 深津鉞郎氏 安城市在住)の協力により当苑で「うぐいすの声を聴く会」を開催します。

日時 四月十八日(日) 十時～(予定)
場所 哲学たいけん村無我苑
研修道場安吾館

※詳細は広報へきなん、また村民の方にはメールでお知らせします。

●梅原猛先生の本を読む会

梅原猛先生の本を読む会が哲学たいけん村無我苑を拠点に昨年十月から活動を始めました。現在は十四名の会員で、毎月第一日曜日の午後に定期的に会合を開いています。あなたも読書の仲間に入りませんか。詳しくは無我苑事務局(電話 四一・八五二二)にお尋ね下さい。

第十二回 回想画廊企画展示

テーマ 「展覧会広告展覧会」
～京都国立近代美術館のポスター
(一九六三～一九七九)

内容 時代が進むにつれての美術への関心の推移、またポスターそのものの芸術性を広告媒体をとおして考える展示。京都国立近代美術館が展覧会のために作成したポスターを中心に、図録、その他館の発行物などを公開。開催は平成十一年五月下旬の予定。

梅原村長トピックス

京都市の「名誉市民」に

平成十年十月一日、京都市から梅原猛先生に「名誉市民」の称号が贈られました。「名誉市民」とは各分野で多大な業績を挙げるとともに、市民生活に貢献したり勇気を与えたりした人をたたえる称号で、梅原先生については、日本文化の総合的な研究、同センター設立への貢献、京都市立芸術大学長就任など数多くの業績が認められています。歴史、宗教など幅広い分野で「梅原日本学」と呼ばれる独自の学問体系を確立しておいでで、今後もご活躍が期待されるところです。

来村者の声(アンケートより)

◎哲学概念(驚き、疑い、不安)はたいへん参考になりました。
(豊明市 男性)

◎友人と来ましたが、同じ文章、同じ絵を見ても、感じるものが一つとして同じでありませんでした。それが哲学かな、と思いました。
(一色町 事務員)

◎子どもと来しました。今度は一人で来たいです。ここで一日、無になりたいと思いました。家庭ではなかなかないです。こんな癒しの場が、必要ですね。
(県外 自営業)

◎もっと東洋思想系のことも扱って欲しい。老荘とか禅とか。
(名古屋市 学生)

◎ふらりと立ち寄りそうな気軽なところがいいです。私の住むところにもあったらと思いました。別世界へ来たようでした。
(小牧市 会社員)

◎特に押しつけるわけでもなく、自らが感じたようなことをそのまま体験できるような気がします。心が安らぐようです。心にゆとりができたと思います。
(京都市 学生)

本の情報

『地球の哲学』

●PHP研究所
梅原 猛・松井 孝典著

欲望絶対主義をどう変えていくか、その羅針盤もなく、人類は次の世紀に突入しようとしています。そこで、いまだどうしても二十一世紀を展望した新しい欲望抑制の哲学が必要になるのです。「梅原」文明の誕生は欲望の解放といってもいいわけで、科学の成果を人類は欲望の実現のために使いすぎてしまい、地球システムにも影響を及ぼすようになってしまった、というのが現在の文明が直面している問題です。「松井」

『日本にきた達磨』

久野 昭著

●南窓社

(達磨は)意外に身近な存在でありながら、この異相の僧が日本に居すわっている意味を、いまの私たちはあまり問おうとはしない。いや、あまりにも、言うべきかもしれない。それだけに、一度日本にきた達磨にきちんと向き合ってみたかったのである。(あとがきより)

「涛々庵茶会」席主表 (平成11年4月～平成12年3月)

月日	氏名(茶名)	流派	月日	氏名(茶名)	流派
4. 25	杉浦 とめ(宗登)	久田流	10. 24	安形 亮照(宗照)	裏千家
5. 23	山田 昇(宗昇)	裏千家	11. 28	高山 恵子(宗照)	表千家
6. 27	小笠原 利(宗紅)	裏千家	12. 19	山崎 瑞枝(宗瑞)	裏千家
7. 25	石原 応順(宗応)	表千家	1. 23	小島 和美(宗美)	裏千家
8. 22	杉浦 伸子(宗伸)	裏千家	2. 27	小沢わさ子(宗和)	松尾流
9. 26	瀬田みな子(宗美)	表千家	3. 26	磯貝 勝代(宗代)	裏千家

平成11年度

碧南市哲学たいけん村無我苑行事のご紹介

	行 事 名	実 施 時 期	内 容
講 演 ・ 講 座	哲学講座	5月～6月 11月～12月	講師を招いて、前期・後期の各期4講座
	茶の湯文化講座	10月	茶界より講師を招いて、茶の湯文化の講義
	新春特別講演会	1月	梅原猛名誉村長による市民を対象とした講演会
	はじめての哲学講座	1月～3月	講師を招いて、初心者を対象にした基礎的な講座
	エンカウンター・グループ	2月 (2泊3日)	集団の中で自分をみつめるための体験研修
	お茶のいただき方教室	2月～3月	初心者のための茶道教室
	座禅教室	未定	講師を招いて、座禅を通じて精神統一を図ることの講義
展 示	企画展示	5月～6月 11月～12月	瞑想回廊で年2回の特別企画展示
	常設展示	随時	伊藤証信翁の書物、遺品の展示
茶 会	立礼茶席呈茶事業	毎日	安吾館立礼茶席で毎日呈茶事業
	涛々庵茶会	毎月	文化協会茶道部の協力で涛々庵で市民茶会
発 行 ・ 販 売	かわら版「哲学たいけん」発行	随時	無我苑ニュースを掲載
	村民通信発行	随時	村民ニュースを掲載
	nota(ノート)発行	5、11月	企画展示に併せ年2回発行
	村民登録証	随時	来村記念として登録証の発行
	記念テレホンカード販売	随時	来村記念として販売
そ の 他	村民野外研修	11月	村民による哲学体験研修
	うぐいすの声を聴く会	4月18日	伝統ある銘鶯保存会により、研修道場でうぐいすの鳴き声を鑑賞
	「日本美術の至宝」の上映	定期・随時	ハイビジョンによる美術鑑賞

※行事内容および実施時期は変更になる場合がありますので、無我苑への問い合わせ、「広報へきなん」等で確認してください。

皆さんの参加、ニュースをお待ちしています！